

引用文献・注表記・文献表作成の手引き

当学会誌「氷上スポーツ研究」における引用文献および注表記の作法や文献表の作成については、原則的に日本体育学会誌「体育学研究」の作法にしたがうものとします。以下は、「体育学研究」における投稿の手引きからの抜粋となります。

[参考 URL：日本体育学会 HP「機関誌」(<https://taiiku-gakkai.or.jp/kikanshi>)]

1. 「文献」引用および「注」表記の作法

1) 引用

論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用してください。引用した文献はすべて文献表に掲載してください。本文中の文献は原則として著者名、発行年、引用ページで示します。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではありません。

(1) 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」、英文の場合には“ ”でくくります。

[例]

① 「体育科教育学の開拓者」(高橋, 2009, p.171) と称される…。

② “Women and Athletics” (Miller, 2004, p.150) と表記し…。

(2) 著者が 2 名の場合、和文の場合には中黒 (・)、英文の場合には“and”を用いてつなぎます。ただし、著者が 3 名以上の場合、筆頭著者の姓の後に、和文の場合には「ほか」、英文の場合には“et al.”を用います。

[例]

③ 「……」(阿江・藤井, 2002, pp.87-88) という結論は…。

④ “……” (Morgan and Hansen, 2007, p.100) という考え方には…。

⑤ 「……」(松澤ほか, 2000, pp.26-27) という結論は…。

⑥ “……” (Nikos et al., 2009, p.143) の視点は…。

⑦ 「……」(新村編, 2008, p.689) という意味で…。

(3) 本文中で参照した文献を明記する場合には、次のような形で著者名、発行年、参照ページを記入し、参照しているページが複数ある場合には、括弧内の参照ページをコンマ (,) でつなぎます。なお、参照ページが限定できない (文献全体を参照している) 場合には、ページは省略します。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の発行年をコンマ (,) でつなぎます。同一著者の同一年に発行された複数の論文は発行年の後に a、b、c …をつけて区別します。複数の文献が連続する場合はセミコロン (;) でつなぎ、筆頭著者のアルファベット順を優先して列挙します。

[例]

⑧ 菊山ほか (2012) によれば…。

⑨ 清水 (2009, pp.3-4) は…。

⑩ 菊 (2006, pp.17-18, pp.27-30) の議論では…。

⑪ 文部科学省 (2011a, 2011b) による一連の報告では…。

⑫ 斎藤・名雪 (2001, p.65) によれば…。

⑬ Cho (2002, pp.59-60) および Kang et al. (2007, p.145) の見解は…。

⑭ Markovic and Mikulic (2010, p.890) によれば…。

⑮ An (2004, 2008) の一連の研究では…。

⑯ …との見解が多い (浅田, 2009, pp.390-395; 田中・林, 2005, pp.271-275; 矢野ほか, 2010, pp.90-92)。

⑰ 例えば, 目的的サンプリングによるインタビュー調査 (Bechtel and O’Sullivan, 2007, pp.221-223; Sherman et al., 2010, pp.2-5) を用いた…。

(4) 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とします。

[例]

⑱ ベルクソン (2001, p.87) は「…」と述べている。

(5) 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記 (4) に従って記入します。原著は英文表記とします。

[例]

⑲ サンドル (2010, p.10) によれば…。しかしながら、Sandel (2009, p.56) では…。

(6) WEB サイト (いわゆるホームページ) や WEB サイトに掲載されている PDF ファイルなどを参考文献とする場合は、(著者名, 発行年) または (著者名, online) のように表記します。発行年やファイル名が特定できない場合は、(著者名, online) と表記します。同一著者の同一年に複数の WEB サイトが掲載された場合は、発行年の後ろに a, b, c…をつけて区別し、発行年が特定できない場合は文献リストの表示順 (1, 2, 3, …) をつけて区別します。

[例]

⑳ 神奈川県立体育センター指導研究部 (2006) の調査では、…

㉑ との報告がある (科学技術振興機構, online1)。一方で、科学技術振興機構 (online2) によれば、…

㉒ との報告がある (U.S. Department of Health and Human Services, online)。

2) 注記

注は本文あるいは図表、動画、写真、その他の資料 (付録などを含む) で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用います。その数は最小限にとどめてください。注をつける場合は、本文のその箇所に注 1)、注 2) のように通し番号をつけ、本文と論文末の文献表との間に一括して番号順に記載します。注記の見出し語は「注」とします。

2. 文献表の作成について

文献表の見出し語は「文献」とし、本文中に記述された引用及び参考文献についてのみ記載することを原則とします。文献の記載は原則として著者名のアルファベット順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目 (書名)・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれます。書式は下記の例にならい、各文献の 2 行目以降は 1 文字下げてください。

1) 定期刊行物 (いわゆる雑誌) の書き方

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名 (発行年) 論文名. 誌名, 巻 (号) : ページ. の順とします。

(1) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合には中黒 (・)、英文の場合には “and” で続けます。ただし、英文で 3 人以上の場合にはコンマ (,) でつなぎ、最後の著者の前だけに “and” を入れます。発行年は著者名のすぐ後の () 内に記入し、論文名と区切ります。著者名の前に番号は不要です。同一著者、

同発行年の複数の論文を引用した場合は年号の後に a、 b、 c…をつけます。

[例]

- ① 小池関也・森洋人・阿江通良 (2006)
- ② Villarreal, E.S., Requena, B., and Newton, R. U. (2010)
- ③ Crossley, N. (2001a) The social body....
- ④ Crossley, N. (2001b) The phenomenological habitus and....

(2) 論文名

論文名の最後はピリオド (.) を打ちます。英文では、題目の最初の文字だけを大文字にします。

(3) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載してください。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法に従います。それ以外は省略しないでください。誌名の最後はコンマ (,) をつけてください。

(4) 巻号およびページ

巻数の後にコロロン (:) をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン (-) で結び、最後にピリオド (.) を打ちます。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を () で巻数の後に示します。

[例]

- ⑤ Rowlands, A.V., Stone, M.R., and Eston, R.G. (2007) Influence of speed and step frequency during walking and running on motion sensor output. *Med. Sci. Sports Exerc.*, 39: 716-727.
- ⑥ Gray, R. (2004) Attending to the execution of a complex sensorimotor skill: Expertise differences, choking, and slumps. *J. Exp. Psychol., Appl.*, 10: 42-54.
- ⑦ Taylor, D. (2007) Performance efficiency rating for basketball. *Coach and Athletic Direction*, 26(1): 26-28.
- ⑧ 小野桂一・若吉浩二・山南真美・尾関美和・福本隆行 (2002) バレーボールのセッターにおけるオーバーハンドパスについての研究—上肢に着目して—。 *スポーツ方法学研究*, 15 (1) :127-136.
- ⑨ 徳永幹雄・橋本公雄 (2002) 健康度・生活習慣の年代的差異及び授業前後での変化。 *健康科学*, 24: 57-73.

(5) 早期公開論文

正式に発刊される前の早期公開論文を引用する場合は、以下の例を参照し、巻 (号)、ページの代わりに Digital Object Identifier (略称 DOI) を記載してください。発行年は、早期公開年です。

[例]

- ⑩ 角川隆明・高木英樹・仙石泰雄・椿本昇三 (2012) 平泳ぎ泳パフォーマンスと圧力分布から推定した足部流体力との関係。 *体育学研究*, doi: 10.5432/jjpehss.12003.

(6) 未公刊論文

印刷公刊されることが確定してはいるが未刊の場合、発行年の代わりに “ (in press) ” と記載してください。未公刊論文を引用する場合は、審査員の求めに応じて提供していただくことがあります。なお、原則として公刊されることが確定していない論文の引用はできません。

[例]

- ⑪ 朝倉雅史・清水紀宏 (in press) 体育教師の信念に関するエスノグラフィー研究。 *体育・スポー*

2) 単行本の書き方

書き方の原則は定期刊行物の項に従ってください。

(1) 単行本全体の場合

著者名（発行年）書名（版数、ただし初版は省略）、発行所、の形式とします。また、編集（監修）書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記します。英文では編集者が1人の場合は（ed.）、複数の場合は（eds.）をつけます。

[例]

- ⑫ 桜井厚（2002）インタビューの社会学. せりか書房.
- ⑬ Sientop, D. and Tannehill, D, （2000）Developing teaching skills in physical education (4th ed.). Mayfield Publishing Company.
- ⑭ 原田宗彦・木村和彦編（2010）スポーツ・ヘルスツーリズム. 大修館書店. ⑮ Moritz, E.F. and Haake, S. (eds.) (2006) The Engineering of Sport 6. Springer.

(2) 単行本の一部の場合

論文（章）著者、論文（章）の題名、編集（監修）者名と「編」、「監」、「編著」など、書名（版数、ただし初版は省略）、発行所、論文（章）のページ（p.またはpp.）の形式とします。英文の場合には、論文（章）の題名、の後に“In:”をつけたあと編集（監修）者名と（ed.）、または（eds.）をつけます。編者が2名の場合、和文の場合には中黒（・）、英文の場合には“and”を用いてつなぎます。ただし、編者が3名以上の場合は、筆頭編集（監修）者の姓の後に、和文の場合には「ほか」、英文の場合には“et al.”を用います。

[例]

- ⑯ Deery, M. and Jago, L. (2006) The management of sport tourism. In: Gibson, H. (eds.) Sport tourism: Concept and theories. Routledge, pp. 246-263.
- ⑰ 山崎喜比古(2008)ストレス対処能力SOCとは. 山崎喜比古ほか編, ストレス対処能力SOC. 有信堂高文社, pp.3-24.

(3) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロロン（:）をつけて訳者の姓名を記入します。共訳の場合は中黒で、訳者が3人以上の場合は「:…ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入します。英文の翻訳書の場合、原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後に< >内に付記します。

[例]

- ⑱ ディクソン: 水戸重之訳（2010）メジャーリーグの書かれざるルール. 朝日新聞出版. < Dickson, P. (2009) The unwritten rules of baseball. Collins.>
- ⑲ アメリカスポーツ医学会編: 日本体力医学界体力科学編集委員会監訳（2006）運動処方の方針原著第7版. 南江堂.

3) WEB サイトの場合

WEB サイト（いわゆるホームページ）や WEB サイトに掲載されている PDF ファイルなどを参考文献とする場合、「URL が変更される」「内容が変更される」「WEB サイト自体が閉鎖される」「文責が曖昧である」などの問題があります。そこで、WEB サイト上の資料は、(1)他に参照可能な公刊物（書籍や学術雑誌等）がないことの確認、(2)著者名と題目およびサイトの名称の確認、(3)参照時の URL

および日付の記録、(4)内容の適切な保存（当該ページのプリントアウト等）を行った上で用いてください。そして、文献表には「著者名（発行年または online）WEB ページの題目、WEB サイトの名称、URL、（参照日）」をできる限り詳細に記載してください。なお、学術団体等が発行する電子ジャーナル、例えば日本体育学会が発行する "International Journal of Sport and Health Science"などは、「1）定期刊行物」としてあつかいます。

[例]

- ① 神奈川県立体育センター指導研究部(2006)学校体育に関する生徒児童の意識調査—中学生の意識。
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/40/4317/sidoukenkyubu/kenkyusitu/kenkyu/h18-1.pdf>, (参照日 2010 年 12 月 8 日).
- ② 科学技術振興機構 (online1) 科学技術情報流通技術基準：目的別メニュー：文献を引用したい。
http://sist-jst.jp/menu_purpose/index.html, (参照日 2011 年 4 月 11 日).
- ③ 科学技術振興機構 (online2) 科学技術情報流通技術基準：目的別メニュー：論文を書きたい。
http://sti.jst.go.jp/sist/menu_purpose/index2.html, (参照日 2011 年 6 月 11 日).
- ④ U.S. Department of Health and Human Services (online) SF424 (R&R) Application and Electronic Submission Information.
http://grants.nih.gov/grants/funding/424/SF424_RR_GUIDE_SBIR_STTR_Adobe_VerB.pdf,
(accessed 2011-07-01).

補記：謝辞、付記などについて

公平な審査を期するために、謝辞および付記などは原稿「受理」後に書き加えることとし、投稿時の原稿には入れないでください。

(2019/令和元年 10 月 12 日作成)